KEK-PS E325実験における ベクター中間子の質量に対する核物質効果の測定 --VertexDriftChamberを用いたe⁺e⁻の解析--

<u>京大理</u>, 高工研_A, 理研_B, 東大CNS_C, 東大ICEPP_D, 東北大_E, 阪大_F <u>佐久間史典</u>, 千葉順成_A, 延與秀人_B, 舟橋春彦, 浜垣秀樹_C, 家入正治_A, 石野雅也_D, 神田浩樹_E, 北口雅暁, 三原智_D, 宮下卓也, 村上哲也, 武藤亮太郎, 成木恵, 能町正治_F, 小沢恭一郎_C, 佐々木修_A, 佐藤博紀, 関本美智子_A, 田原司睦_B, 田中万博_A, 山田悟,

四日市悟_B, 吉村善郎

- Introduction
- •E325 Setup
- 2002 data analysis
 - •using VertexDriftChamber
 - •e+e- analysis
- summary

JPS 2003/03/29



クォークの質量の起源は?



どのようにして検証するか?

- ・QGPのような高温高密度の下でのカイラル対称性の回復
- ・原子核中のような有限密度下におけるカイラル対称性の部分的回復









History		
	$\phi \rightarrow K^+ K$	$\begin{array}{c} \omega \rightarrow e^+ e^- \\ \phi \rightarrow e^+ e^- \end{array}$
1997 June First Physics Run with K ⁺ K ⁻	99	
1998 May Already Published		95
(P.R.L. 86 (2001) 5019)		12
1999 July Hawaii JPS/QM2002/PANIC02	178	~700 ~125
2000 June Production Run with newly installed		
Dec. <u>Vertex Chamber</u> & Lead Glass Calorimeter		
2001 Nov. Production Run	$\sim 8600 \times 1.3$ $\sim 350 \sim 860 \times 1.3$	
2002 Feb. LAST Production Run		

Invariant Mass Spectrum of e+e- ('98 data)

P.R..L. vol.86 (2001) p5019









comment	material	Interaction length	radiation length
	С	0.21%	0.4%
	Сυ	0.05%	0.6%
total	C,Cux4	0.41%	2.8%
JPS 2003/03/2	29		





Mass resolution

 $\omega \rightarrow e^+e^-$ において

C: 13.3MeV/c²/18.5 = **71.9%** Cu: 12.4MeV/c²/18.2 = **68.1%**

~1.4倍 mass resolutionの向上







<u>Carbon target</u>





- KEK-PS E325実験は12GeV/c²p+A=ρ,ω,φ+Xにおいて、e⁺e⁻,K⁺K⁻ 両channelの測定を行う実験で、ベクターメソンに対する核物質効果の測定を目的として行った。
- •'01-'02のrunにおいて'98の<u>約100倍</u>の ρ , ω , ϕ をためることができた。
- <u>VertexDriftChamber</u>を入れた解析の結果、
 - ・VertexResolutionの向上(~1.7倍)
 - ・ωMassResolutionの向上(~1.4倍)
 - を確認することができた。
- ●2002e⁺e⁻(@Carbon)dataの解析の結果は、VTCを入れた解析においても これまでのE325の結果と矛盾のない結果が確認できた。
 - ωのpeakの左側に既知のhadronic sourceからは説明不可能な <u>excess</u>が見られる。
 - $\rho / \omega ratio は 0.00 \pm 0.03 となり、1より大きく異なる。$
- ●Cupper Targetにおけるe⁺e⁻の解析を進めて、nuclear dependence の有無を見る予定である。

